

1. 概要

玉川上水が開削される前の小平付近は樹木も無く、武蔵野台地の南端にあり、すすき野の原野だったと言われている。

集落はなかったが、東西(青梅街道)、南北(鎌倉道)に通じる道はあった。武蔵野台地特有の草花があり、野鳥も沢山いたのではないかと考えられる。

開墾が進み、玉川上水からの分水が汚れると人が住むようになり、境界木や防風林(屋敷森)が設けられ、草木の植生も徐々に変化したものと考えられる。

2. 玉川上水の樹木

玉川上水は本来飲み水であり、水路に泥水等が流れ込まないように両土手を高くし、下草刈りなどを行い、管理も徹底されていた。

昭和30年頃の玉川上水と五日市街道 (小金井公園付近)



名勝小金井絵巻 (小金井市教育委員会) より

現在のようにならうとした緑地帯になったのはここ50年前からと考えられる。生活様式の変化や近代水道への移行が進み、上水路としての役割が終わり、保全管理が弛緩になったことからだと思われる。

今の樹木は新田開発区域の植物類から風、野鳥、人間を含む動物等により種子が運ばれ徐々に成長したものと考えられる。新田開発時には境界木として櫻が植えられ、防風林としての屋敷森には白樺、櫻、竹等が植えられた。また、土埃を防ぐために茶の垣根もつくられた。

雑木林には栲、小檜、櫻等の落葉樹が並び、落葉は堆肥として、枝木等は薪にされ燃料として使われた。その他に秣場等飼料や肥料の確保に重要な役割もあった。

今、玉川上水の土手には2004年の小平市の調査によると115種以上の樹木があると言われる。また、花が咲き、実のなる木々も多く見られる。目に付くものをあげる。図鑑を手にして調べてみよう。

ウグイスカグラ・・・早春にピンクの花が咲く。

サクラ・・・ヤマザクラ、ソメイヨシノ(桜類)。

イヌシデ・・・緑の花。

エゴノキ、ミズキ、マユミ、ツリバナ、ゴンズイ、クリ、ガマズミ、ウツギ・・・これらは春に白い花。

クサボケ、タマアジサイ、クサギ、ムラサキシキブなどは春から夏に咲く花。

3. 玉川上水の野草

玉川上水の土手には武蔵野台地の自生野草が多く残る。1998年の小平市の野草調査によると市内で418種以上が記録された。小平市では小川水衛所跡から八左衛門橋までの約800mを「自生野草観察ゾーン」に指定しており、自然野草を守り育てる会の平成18年度の調査では野草146種、木本・つる性木本16種が確認されている。

玉川上水の土手で見られる代表的な花をあげる。

散策をしながら、季節ごと美しく咲く花々を愛でて見るのも如何か。

早春 (3月から4月頃)

シュンラン、イチリンソウ、ニリンソウ、アズマイチゲ、ヒメウズ、チゴユリ、アマナ、ホウチャクソウ、ホトケノザ、カキドウシ、キランソウ、フキ、タンポポ、ハハコグサ、キジムシロ、ヘビイチゴ、オオイヌノフグリ、スマレ、タチツボスマレ、ツボスマレ、アオイスミレ、ムラサキケマン、フデリンドウ、ヒトリシズカ、タネツケバナ、シャガ、ナツトウダイ

春から初夏 (5月から6月ごろ)

キンラン、ギンラン、ササバギンラン、ネジリバナ、セリバヒエンソウ、ウマノアシガタ、ノカンゾウ、ナルコユリ、アマドコロ、ノビル、タツナミソウ、ハルジオン、ノアザミ、キツネアザミ、ニガナ、コウゾリナ、キンミズヒキ、ナワシロイチゴ、カラスノエンドウ、アヤメ、

ナンテンハギ、クサノオウ、ヤマブキソウ、フタリシズカ、ショカツサイ、オオバコ、ヘラオオバコ、ホタルブクロ、ドクダミ、ユキノシタ、タカトウダイ、オカトラノオ、ヤブジラミ、コヒルガオ、ギシギシ、スイバ、スイカズラ、カラスビシャク、チガヤ、ハエドクソウ

夏 (7月から8月頃)

マヤラン、アキカラマツ、センニンソウ、ボタンズル、ヤブカンゾウ、ヤマユリ、オニユリ、オオバギボウシ、コバギボウシ、ヤブラン、ツルボ、ウバユリ、イヌゴマ、アキノタムラソウ、ヒメジョオン、ワレモコウ、ツルフジバカマ、タケニグサ、ツユクサ、ヤブミョウガ、ヘクソカズラ、キキョウ、ツリガネニンジン、ハンゲショウ、チダケサシ、ヒルガオ、ミズヒキ、イヌタデ、イタドリ、イシミカワ、ママコノシリヌグイ、カラスウリ、エノコログサ

秋 (9月から11月ごろ)

ヤマジノホトトギス、キチジョウソウ、イヌトウバナ、メハジキ、ノハラアザミ、アキノノゲシ、シラヤマギク、ヤマシロギク、ノコンギク、クズ、ヌスビトハギ、リンドウ、アカネ、ヒガンバナ、キツネノカミソリ、ヤマゼリ、ススキ、アブラススキ、チカラシバ、ノガリヤス、トダシバ、チジミザサ、キツネノマゴ、カラスノゴマ、ゲンノショウコ、アキノキリンソウ、ヤクシソウ

豆知識

武蔵野台地

武蔵野と言われる地域は東北・東を荒川(隅田川)、西北を入間川、南を多摩川の沖積低地によって限られた一続きの台地である。西半分の西端が青梅市(海拔180m)、東端の荒川(海拔20~30m)で高低差があまりない平坦な台地。高い青梅市を要(かなめ)として扇を開いた形に台地が東に向いて展開している。

台地の表面は厚い赤土の関東ローム層で覆われ、その上に火山灰が堆積したといわれている。

屋敷森(キモリ)

秩父風・筑波風などの冬の強風から屋敷を守るため防風林として建物を中心に植林された。これを昔、地元では木の森の意味で「キモリ」と言った。都市化が進み、その面影は今見られなくなった。

4. 野 鳥

行動半径の広い野鳥を玉川上水で体系的に捉えることはバードウォッチャーでない限り容易ではない。

年中ほとんど同じ地域に棲息している留鳥と、季節によって移動する漂鳥がいる。

玉川上水野鳥の会の調べでは留鳥は25種類程度、漂鳥は13種類程度と言われている。

留鳥のうち玉川上水を遊び場としている鳥はヒヨドリ、オナガ等である。木の芽や実、昆虫などを獲り餌場としているのはシジュウカラ、メジロ、ヒガラ、エナガ、コゲラ、アオゲラ、アカゲラ、等である。流水の中を餌場としている野鳥はハクセキレイ、セグロセキレイ、カルガモ、コサギ、ゴイサギ等である。また、キジバトは安住のねぐらとしているようで、営巣も見られる。

漂鳥のうち季節を問わず見かける鳥はムクドリ、ツグミ、等である。夏季に多く見られる鳥は、カッコウ、ヒバリ、ツバメ、ホトトギス等で主に昆虫を餌にしている。冬季に多く見られる鳥はツグミ、ウグイス、ジョウビタキ等で主に木の实や昆虫を餌にしている。また、流水の中を餌場にしている鳥としてミソサザイ、カワセミ等。

また、野鳥仲間のスター的存在であるオオタカも玉川上水の近くに棲息しているといわれている。自然の豊かさの象徴とも言える。暖かい目で見守りたいものである。

コゲラ ギー、ギーと鳴き、せわしく木々を飛び回る キツツキの仲間



「多摩のあゆみ」 122号から

5. む す び

玉川上水の植物の植生は今、ピンチである。高木、亜高木、低木、草本類がところ狭しと繁茂している。

鳥が運んできた種子による常緑樹(シュロ、アオキ、ツゲ、ミズキ等)が多く、日照不足を来し、植物の枯死、消滅が進んでいる。又、ケヤキなどが大木化し、根が深く伸び、サクラ(小金井サクラ)を枯らしたり、貴重な素掘りの土手の崩壊をも招いている。

文化財保護法に基く史跡指定は現状維持を余儀なくさせ、自然環境は荒れ放題と言わざるを得ない状況である。

玉川上水に係わる行政の悪しきしがらみ・環境省、国土交通省、東京都(建設局・環境局・水道局・教育委員会等)、各市の担当部署・良い管理の方法を期待したい。

一方玉川上水を前向きに何とか守りたいと言う一心で活動している小平市内の組織や団体があるので紹介しておこう。

- * 小平市玉川上水を守る会
- * 玉川上水・自生野草を守り育てる会
- * 玉川上水に木もれ陽を呼ぶ会
- * 小平市野鳥と緑の会



キンラン



ギンラン

最近、心ない人による自生野草の持ち去り、盗掘が後を絶たない。自然環境を大切に守り育てようとする人にとってはショックであり、心が痛む。

豆 知 識

小平市の木は「ケヤキ」、花は「ツツジ」、鳥は「コゲラ」

玉川上水ワンポイントガイド No.8

玉川上水の樹木・野草・野鳥



自生野草観察ゾーン・ヤマザクラとニリンソウ

シリーズ 玉川上水ワンポイントガイド

No	テ ー マ
1	玉川上水の概要
2	玉川上水の分水
3	玉川上水の分水・小平編
4	玉川上水と小平周辺の新田開発
5	玉川上水の橋
6	玉川上水の水車
7	玉川上水の通船・船溜り
8	玉川上水の樹木・野草・野鳥
9	玉川上水と小金井サクラ
10	玉川上水あれこれ
11	玉川上水お勧め散歩ガイド

発行 No. 8 2007年11月、

発行 小平・玉川上水再々発見の会
E-mail tamagawasaisai@yahoo.co.jp
代表 庄 司 徳 治